



[祈りと信仰のまち京都]
矢田寺の送り鐘（精霊送り）

歴 2-31 (R03)

矢田地蔵尊という呼び名でも親しまれている矢田寺は、奈良県（大和郡山市）にある紫陽花で有名な矢田寺の別院として、承和12年（845）、満慶（満米）上人と小野篁により、五条坊門付近に建立されました。その後、文和年間に下京区矢田町へ移り、天正18年（1590）、豊臣秀吉の命により現在地へ移転したと伝わっています。宝永、天明、元治の大火により類焼し、現在では小堂を残すのみとなっています。

人通りの多い寺町商店街、寺町通三条交差点やや北側に位置し、本堂は1階外陣上部に回廊付き方形型の望楼を設けています。

俗に代受苦地蔵（だいじゅくじぞう）と呼ばれる、本尊の地蔵菩薩（矢田地蔵）は高さ約2メートルの立像で、満慶（満米）上人が冥土へ行った時に見た、地獄の炎の中から罪人を救う僧侶の姿を彫ったものといわれています。この地蔵をモチーフに手作りされた「ぬいぐるみ地蔵」は愛らしく人気があります。

8月初旬の六道珍皇寺「迎え鐘」に対し、矢田寺の梵鐘は「送り鐘」と呼ばれ、お盆の終わり（8月16日）に死者の霊を冥界へ送るために撞かれます。この日、門前では供養の塔婆の授与が行われ、地元の人だけでなく、観光で訪れた人や五山の送り火を見終えた人たちが訪れ、終日賑わいます。



送り鐘



矢田地蔵



〒604-8081 京都市中京区天性寺前町523

電話番号 075-241-3608

アクセス 地下鉄東西線「京都市役所前駅」徒歩3分